

Q

# 頭痛の原因が鼻茸だった 手術以外の方法は？

53歳、男性。最近、頭痛がひんぱんにおこるので、脳神経外科を受診したところ脳に異常はなく、詳しい検査の結果、蓄膿症（副鼻腔炎）に伴う鼻茸が頭痛の原因とわかりました。「根本治療には摘出術を」といわれました。手術以外に方法はありますか。（福井県 H）



笠井 剛

笠井耳鼻咽喉科クリニック・自由が丘診療室（東京都）

A

保存的治療で改善がみられない場合、手術を考  
最近「内視鏡下鼻内手術」が主流

鼻茸とは鼻腔や副鼻腔の粘膜の一部がこんにやくのようにプロポヨと腫れた状態のもので、鼻ポリープともいわれます。鼻茸ができる原因については、まだはつきり解明されているわけではありませ

ん。鼻茸がある人の大半は慢性副鼻腔炎であることから、ウイルスや細菌感染によつて白血球やリンパ球から放出された炎症性刺激物質が粘膜の腫れや破壊を引きおこし、粘膜構造の変化したものが鼻茸と考えられています。

「頭痛の原因が副鼻腔炎」というのはよくあることです。かぜをひいたあとに急性副鼻腔炎になると激しい頭痛がおこりますし、慢性副鼻腔炎で鼻茸がある場合、鼻腔が狭くなり副鼻腔との換気が悪くなるため、鼻閉と頭重感が長くつづきます。

副鼻腔炎に伴う良性のポリープである鼻茸をどうするべきか、専門医の間でも意見が分かれるところです。症状がない場合には、治療しないで経過をみるだけでもよいケースもあります。鼻づまりや頭痛、頭重感、鼻水がのどに流れてくるなどの症状がある場合、一般的には、まず薬物療法や耳鼻咽喉科での鼻の処置やネブライザー療法で3カ月ほど経過をみ

ます。こうした保存的治療で鼻の所見や症状に改善がみられない場合、手術を考えることとなります。

以前、副鼻腔炎の手術は上唇の内側を切開して上あごの骨を削り、炎症をおこしている副鼻腔の粘膜をすべて切除する方法が行われていましたが、最近では内視鏡を用いた「内視鏡下鼻内手術」が主流になっていきます。粘膜をすべて切除するのではなく、副鼻腔との交通路をふさいでいる粘膜だけを取り除き、換気をよくすることで炎症をおこしている粘膜を正常な状態に戻そうとする手術方法です。

## ●半導体レーザーによって切除された鼻茸



切除前



切除後



切除された鼻茸

## ●副鼻腔の種類と位置



鼻腔の中は中央に鼻中隔、両側に側壁があり、側壁の回りの4つの副鼻腔に連絡通路がある。